

令和6年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る基礎となる
資質・能力を身に付けた児童を育成する英語教育の推進

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語による言語活動の割合
(授業中50%以上)が増加。
(5年 R4:92.0%⇒R5:94.0%)
(6年R4:93.3%⇒R5:96.3%)

②「CAN-DOリスト」形式による
学習到達目標の設定、公表の
割合が増加。

設定(R4:94.7%⇒R5:98.7%)
公表(R4:48.7%⇒R5:52.0%)

未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による
学習到達目標の公表、達成状
況の把握の割合に引き続き改善
の余地がある。

(公表:52.0% 把握:79.3%)

②「児童が学習者用デジタル教
科書を活用した授業」の実施状
況に改善の余地がある。

(R5:69.0%)

2. 要因分析

①県内の全小中学校を対象に全
国学力学習状況調査活用研
修会や、各教科等授業改善
プロジェクト公開授業において、
授業改善研修会を実施したこと
で、授業改善への意識が向上し
ていると考えられる。

①②①県指導主事会議において、
英語教育実施状況調査の結果
を共有し、各学校への指導や研
修会等を実施したことで、授業
改善や、「CAN-DOリスト」形式
の学習到達目標の設定・公表が
促進されたと考えられる。一方で、
未だ評価の場面での活用方法
に差があると考えられる。

②活用場面や効果的な活用方
法について、指導主事自身の
知見が不足しているため、学校
に十分に指導助言していないこ
とが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①「令和6年度各教科等授業改善プロジェクト」による
授業改善の推進

- ・外国語活動・外国語科の目標に迫る授業改善の推進を
図るため、令和6年度各教科等授業改善プロジェクトに
おいて、全県に向けた授業公開、授業改善研修会を実施
する。また、ハイライト動画を作成し周知を図る。
- ・モデル校に対し、年間を通して英語担当指導主事（県指
導主事・該当市町村指導主事）がチームとなって関わり、
日々の授業改善のための授業づくりを支援する。

①小中高の校種の枠を超えた研修の推進

実践的指導力の向上を図るため、群馬県総合教育セン
ターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。本
県のALTアドバイザーを講師とし、英語での指導力向上を
図るためのスキルアップ研修を行う。

②学習者用デジタル教科書の活用の推進

活用を促進するにあたり、効果的な活用について指導主事
の知見を広げ、指導助言の充実を図るとともに、学校の中
核となる先生方への周知を図るため、有識者の講演、指
導主事と先生方による協議等を行う研修会を開催する。

○教員採用選考における加点制度の実施

一定の英語力を有する小学校教員の採用を増やし、外国
語の指導の充実を図る。

令和6年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 57.9% ⇒ R6 : 60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① R5全国学力・学習状況調査において、全国比を上回った。
- ② 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表の割合が増加(R4:64.3%⇒R5:67.7%)
- ③ 英語の授業におけるICT機器の活用状況の改善。
1人1台端末の活用 (R4,R5:100%)
発表,やり取り : (R4,R5:98.1%)
書くこと: (R4:93%⇒R5:94.8%)

未だ改善が必要な点

- ① CEFRA A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が昨年から減少。(R4:59.1%⇒R5:57.9%)
- ② 生徒の英語による言語活動の割合(50%以上)が減少。(R4:82.7%⇒R5:75.9%)
- ③ 指導者と生徒間における言語活動に関する意識の差が大きい。(R5全国学力・学習状況調査)
- ④ 「生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業」の実施状況に改善の余地が見られる。

2. 要因分析

- ② 県指導主事会議において、英語教育実施状況調査の結果を共有し、各学校への指導や研修会等を実施したことで、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の公表が促進されたと考えられる。

- ② 県内のICTを活用した授業実践例を県webサイトで公開しているため、ICTを活用した授業改善が促進されたと考えられる。

- ① 外部試験受験者数が減少したこと、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用状況に学校間の差が見られることが要因と考えられる。

- ②③ 言語活動を中心とした授業づくりについて教師間での意識の差があることが要因の一つと考えられる。

- ④ 活用場面や効果的な活用方法について、学校に十分に指導助言できていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③「令和6年度各教科等授業改善プロジェクト」による授業改善の推進

- ・ 外国語活動・外国語科の目標に迫る授業改善の推進を図るため、令和6年度各教科等授業改善プロジェクトにおいて、全県に向けた授業公開、授業改善研修会を実施する。また、ハイライト動画を作成し周知を図る。
- ・ モデル校に対し、年間を通して英語担当指導主事（県指導主事・該当市町村指導主事）がチームとなって関わり、日々の授業改善のための授業づくりを支援する。

- ②③ 小中高の校種の枠を超えた研修の推進
実践的指導力の向上を図るため、群馬県総合教育センターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。本県のALTアドバイザーを講師とし、英語での指導力向上を図るためのスキルアップ研修を行う。

- ② 指導力向上、効果的なTeam Teachingの推進
ALTが参画する授業改善を図るため、各学校のALTに対して指導助言を行うALTアドバイザー派遣事業及びALT、JTEを対象にした群馬県英語教育フォーラムを行う。

- ④ 学習者用デジタル教科書の活用の推進
学校における活用を促す指導助言の充実を図るため、先生方との協議や指導主事対象の研修会を実施する。

令和6年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の一層の充実に向け、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりする、コミュニケーションに係る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進

○CEFRA2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 50.1% ⇒ R6 : 60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①R5英語教育実施状況調査において、CEFRA2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が目標値に達した。

(R4:48.4%⇒R5:50.1%)

②「話すこと」及び「書くこと」を評価する、スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況が改善。

(R4:70.0%⇒R5:77.6%)

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公開している割合が昨年から減少した。

(R4:74.3%⇒R5:73.0%)

②授業における生徒の英語による言語活動の割合が減少した。コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、R3に数値が下がって以降、横ばいとなっている。

(R4:49.5%⇒R5:49.1%)

2. 要因分析

①外部試験受験者数は減少したが、各高校で生徒の学習到達度を見取るための評価の改善が促進されたと考えられる。

②「令和5年度新しい学びのための授業改善事業」の実施により、県内の各高校に言語活動を中心とした授業改善が促進されたと考えられる。

①「CAN-DOリスト」形式による到達度目標については、すべての学校で設定されているが、その活用においては、学校間で差が見られることが要因と考えられる。

②言語活動を中心とした授業に対する教師間での意識に差があることが要因の一つと考えられる。それに伴い、学校間で実施状況の割合にも差が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①グローバルに活躍することが期待される人材育成の促進
 - ・言語活動の一層の充実を図るため、ALTが参画する授業改善を促進する。また、群馬県英語教育フォーラム、ALT研修会を実施し、ALTの指導力向上も促進する。
 - ・グローバル人材の育成のための取組として、「ぐんま高校生グローバル・デイ」を実施し、留学への機運を高める。
- ①「CAN-DOリスト」を作成する意義、その活用方法等について、改めて、教育課程研究協議会や授業改善の取組の中で、指導・助言を行う機会を設定する。また、効果的な活用の事例などを共有し、周知する。
- ②言語活動を中心とした授業改善の促進
 - ・「新しい学びのための授業改善事業」にて、校内研修の充実を図り、教員の指導力の向上、学習評価の工夫・改善を促進する。
 - ・授業改善推進委員による「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための実践研究を行い、ICTを効果的に活用した言語活動中心の授業づくりについて指導・助言を行う。また、全県に向けた授業公開を実施するとともに、実践研究のハイライト動画を作成し、周知を図る。
 - ・実践的指導力の向上に向けた研修の推進
学習指導要領で求められる4技能5領域における言語活動の充実に向けた実践的指導力の向上を図るため、群馬県総合教育センターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。

群馬県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	50.1	60		60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	21.6	30		30		30		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		70	49.1	60		60		65		65	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		80	77.6	80		80		85		85	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	73	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	74.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	77.7	80		80		85		85	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		65	38.6	65		70		80		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	57.9	60		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	75.9	90		90		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	83.2	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	65	67.7	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	72.3	85		85		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	36	40		45		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		90	69.6	90		90		90		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.7	100		100		100		100	
		公表（％）	50	52	60		65		70		75	
		達成状況の把握（％）	80	79.3	85		85		90		90	